

ねらい

交流活動の現地下見を兼ねた事前打ち合わせで、必要な環境や援助について語り合い、共に考えることを通して、幼保小それぞれの交流のねらいへの相互理解を深める。

ポイント

- ・交流活動に願うこと(広い戸外での交流により、心を開放しながらのびのびと体を動かしてほしい、一斉活動ではなく、子どもがしたい遊びを見つけ楽しむ中で自然なかかわりが生まれ、楽しい時間や空間を共有し、親しみを感じたり身近な存在に感じたりしてほしいなど)を語り合い、活動への願いを共有できた。
- ・願いの実現にむけ、予想される子どもの姿を共有し、援助のポイントや環境について、大人同士で意見交流を行い、交流活動の充実がはかられた。

実践内容

◎1年生担任、育成学級担任、幼稚園・保育園5歳児担任が集まり、下見をしながら語り合う。

<下見>

場所はどこがいいかな？

広さはここだけど、虫がたくさんいるのはあっち？

こっちの方が広いからこっちにする？

☆自校園の子どもの姿や興味から、予想される遊びを考える
・虫捕り ・草花遊び
・秋の自然物集め
・鬼ごっこ ・かくれんぼ など

安全面はどう？何をねらう？

この穴や切り株も何か楽しい遊びが生まれそう！

鬼ごっこが好きな子どもがいっぱいいるから、人数が増えすぎると狭いかも？

その時は場所を広げる？でも遊びの途中で自由に場所移動は危ない？

一旦集まって伝える？

それだと子どもの気持ち途切れるかも…

子どもの思いや状況に合わせて、大人がその場で声かけあって連携しよう！

そうしよう！

♡本時のねらいや援助のポイントを共通理解する
・御苑の自然や秋の自然を肌で感じてほしい。
・思いきり体を動かして心を開放して遊んでほしい。**グループを決めず各々での活動にしよう。**
・安全面を考慮しながら、それぞれのしたい遊びや興味関心を大事に見取って、**大人も一緒に楽しみ、活動のモデルになろう。**
・今回はグループやペアを組んだ交流ではないので、**互いの校園の子どもたちに大人が意図的に親しくかわり、子ども同士と一緒に遊べるように援助しよう。**

<当日>



みんなが集まって、交流スタート！



秋の自然物を介して、校園の垣根を越えて自然と子どもたちが集う



トノサマバッタや！
1年生が帽子を使って虫捕りを始めると、5歳児も真似して挑戦！

成果と課題

- ◎ 事前にねらいや援助について様々な場面を想定して話をしたことで、子どものしたい遊びや思いのまま受けとめ、幼保小の大人同士で共通の願いをもってかかわることができた。その甲斐があって子どもたちも戸惑うことなくのびのびと過ごすことができ、互いに親しみを感じたり、「楽しかった。また遊びたい」という次の交流への思いを膨らませたりすることができた。
- ◎ 保育や授業を一緒につくっていく中で、互いの大事にしていること等、価値観や願いなど意見交流をし、互いの教育・保育への相互理解を深めることができた。
- ◎ 今後は事後研修を充実させ、子どもの姿の見取りや育ちを語り合い、架け橋期の子どもたちの主体的・対話的で深い学びの姿について研修を深めながら、互いの教育・保育の改善につなげていきたい。